

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401780		
法人名	株式会社 Human-system Japan		
事業所名	グループホーム 自由の大地		
所在地	札幌市手稲区稲穂3条2丁目11-7		
自己評価作成日	平成26年6月6日	評価結果市町村受理日	平成26年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401780-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手稲の高台に位置し、遠くは石狩湾や暑寒別岳が望め、景色(夜景)が素晴らしく環境豊かな施設です。そんな環境の中で介護保険制度の理念のもとに、地域に溶け込んだ穏やかで楽しい生活を過ごしていただけるように職員一丸となって努力しています。また、ヘルパーの実習生を受け入れている施設でもあり、認知症に対する対応の仕方を実習生に対してしっかりと指導出来るように社内研修に力を入れております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 10 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、敷地や建物全体にゆとりがあり、特に居間の大きな窓からの眺めが良く、視界の広さと家庭的な雰囲気が心の余裕に繋がる過ごし易い住環境です。ホームでは「尊厳、自由、地域」の3本柱の理念の実践に向けてあらゆる方面から取り組み、利用者の地域生活の継続と、できる力を支える個性を重んじた自立支援を行っています。職員の転退職は少なく、代表者、管理者、職員との風通しが良く、立場や役割を踏まえた協力が円滑であり、それらが安定した利用者サービスに反映されています。利用者は、趣味活動や食事作り、廊下での歩行訓練や菜園の手入れなどをする事で、日常生活の継続と維持を保っています。また地域の人達との焼肉会を楽しみ、花見や恒例の近郊施設の夏祭りに出掛け、最近では、「喫茶の日」も楽しみの一つになっています。研修の充実、各種委員会活動、実習生の受け入れなど質の向上に向けた仕組みも充実しています。地域や近隣住民との関係も深まり、更に子供達とも交流したいと、利用者の笑顔を求めて新たな取り組みを考えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念を事務所に掲示し、実践するよう日々努力している。	開設時からの理念を分かり易く表現して、地域、尊厳、自由を柱としたケア理念を作り上げています。全職員が理念の意味する内容を十分に理解し、ケアプランに盛り込んで実践に努めています。新人職員には社内研修で理念を理解してもらっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練、ホームの行事への参加を町内会へ呼びかけたり町内会主催の行事に参加させていただいたりしている。	管理者が、町内会の会議に出席してホームの活動や役割を説明しています。町内清掃や焼き肉会にも利用者と参加しています。近隣住民とは日々のお付き合いの中で災害時の協力などを頂いており、周辺地域との関わりを大切にしています。介護実習生や高校生の職場見学を受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症勉強会や救急救命等貢献できる活動を地域住民、町内会へ発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催とし、より多くの報告、話し合いがなされ、サービスを向上させるべく努めている。	年6回、地域や町内会の代表、地域包括支援センター職員、家族の方々などの参加により開催しています。行事や運営状況、アクシデントや外部評価に関する報告をし、意見交換をして運営に活かしています。運営推進会議の中でAED救急講習会を行い、地域や家族の人達と学ぶ機会を設けています。	運営推進会議の議事録を全家族に配布していますが、更に議事録を工夫し、より一層理解を深めて貰える取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区が開催する「管理者会議」・「ふれあいフェスティバル」等に必ず参加し、いつでも相談協力できる体制を築いている。	市や区の管理者会議に参加して情報を得ているほか、区のふれあいフェスティバル事業に参加し、一般の施設見学を受け入れています。また保護課担当者との連携も密にして利用者の暮らしに反映しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてカンファレンスを開き、冊子などを用いて理解を深めている。玄関の施錠は夜間帯のみ防犯の為行っている。	フロア会議等で身体拘束の弊害と内容を理解し、身体拘束の無いケアを行っています。夜間のみ玄関を施錠しています。現在は不意の外出が見られませんが、近隣には見守りや連絡を依頼しており、安全面にも配慮して自由な暮らしを支えています。職員の何気ない言葉が拘束とならないよう特に注意しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、言葉の虐待防止について理解し、注意、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などにより学ぶ機会を持つ職員もいるが、代表が全体会議の中で勉強会を開き学んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去の際は管理者が丁寧に説明し、理解と同意を得ている。また、退去の契約解除の際も同様に説明し、同意を得ている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や苦情箱を用いて利用者や家族の意見をくみ取れるように努めている。	家族とは信頼関係を築く中で、話し易い雰囲気では要望などを聞き取り、その都度対処しています。隔月のホーム便りと毎月の近況報告を郵送し、家族に安心してもらえるよう利用者の暮らしぶりを伝えています。また家族からの情報や協力を頂いて、地域との関係作りに役立っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議、フロア会議の中で活発な意見交換がなされている。	職員は、会議などで活発に意見を交換し、外部研修も積極的に受講するなど、ケアの質向上に努めています。また食材や運営推進など各委員会の活動があり、運営に関わっています。社長は平日はホームに居り、管理者や職員の意見を吸い上げてホーム運営に活かしています。職員の転退職は少なく、利用者と向き合いながら家庭的な居場所作りをしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加を積極的にできるよう支援している。休みも希望通りとれている。処遇改善交付金を利用している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を用い職員の知識・技術向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に管理者会議やグループホーム協議会に出席している。また、ほかグループホームとの職員交流会なども行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、今まで利用されていた他事業所、医療機関、家族との連携、安心できる関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の話し合いを大切にし、要望を傾聴し、面会時にも意向を伺い、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に十分な話し合い、本人に合ったサービスを提供できるよう支援している。諸手続に関する限りサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、敬意と尊敬の意を持ち、出来ることは積極的に行っていただき、出来ないことは支援し支え合う生活を送っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーション、行事に参加を呼び掛け楽しまれたり、面会時、その他に本人の状況、生活をお伝えし、共に支援体制を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、面会、外出等、ご本人の好まれている事を把握するよう努め、支援している。	友人などの訪問時には、居室でゆっくりとして頂いています。希望を受けて馴染みの理美容室の利用や墓参など、職員や家族が同行しています。電話や手紙のやり取りも手助けしており、利用者のこれまでの生活の維持や関わりを大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やレクリエーションを行う事で、利用者間の円満な関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方のお見舞いや訃報の際は葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの要望を聴き、本人の希望が叶えられるよう努めている。	日々の生活の中で思いや要望を聞いています。利用者の本音である帰宅願望を受け止め、昔話をしたり写真を見たり寄り添って過ごしています。発語が難しい人も仕草や表情、全身の表現を逃さずに理解しようとしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・親戚からの情報を得て環境の変化にも対応できるように基本情報を回覧している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を把握し、したい事、できる事をしていただくよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医療機関から要望、意見を聴き、職員間で話し合い計画作成している。状態の変化が見られた時はカンファレンスを設け作成している。	入居時に本人、家族から情報を収集し、カンファレンスを通して計画作成担当者が最初の仮介護計画を作成します。1～2ヵ月後に再度見直して計画を確定しています。計画は、出来る力に焦点を当てた内容で、本人の望んでいる暮らしや自立に向けた支援につなげています。3ヵ月毎にモニタリングやサービス担当者会議を行い、計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画、実行、ケアする上での問題点等、その都度話し合っている。記録の書き方の勉強会も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、病院の送迎、買い物の同行・代行を行い支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの音楽会・消防等の地域資源と協力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師による月2回の往診と24時間連絡可能な体制を取っている。また、歯科往診と歯科衛生士による口腔ケアも毎週のように行っている。	現在は、利用者全員が協力医師による隔週の内科往診を受診していますが、かかりつけ医の継続も支援しています。週1回の歯科往診もあり、他科の受診は介護車両で職員が通院を支援しています。医療連携チェック表や往診記録などで関係者間で情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を毎週受けており、日常の気づき、変化について気軽に相談出来ている。緊急時の対応もすばやくできる体制を整えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡を密にして、書類を整え早めに対応できるよう心がけている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族にホームでの対応出来る最大のケアについて説明している。また、かかりつけ医とも密に連携を図っている。	利用契約時に、利用者・家族に重度化した場合や看取りに関しての指針を説明し、同意を得ています。状態の変化時には、家族の意向を聞きながら、医療関係者と共に今後の方向性を話し合っています。	ホームでは、看取りケアの経験はありませんが、今後の支援に向けて、職員が不安なく対応できるようにマニュアルの整備や必要な研修の充実に取り組むことを期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の協力を得て救急救命の研修を行なっている。また、緊急時には、わかりやすい緊急時マニュアルを作成し、見やすい場所に掲示している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防との協力を得て、避難訓練を行っている。その時には地域の方に声かけし参加していただいている。今後は震災時の訓練も行いたいと考えている。	年2回消防署や地域住民の協力の下、昼夜を想定した総合訓練を実施しています。水や食料の備蓄、ストーブや携帯用ガス機器など停電や防寒用備品を用意しています。避難経路や避難場所を確認しています。AEDを含め救急救命講習を行っています。	地震等の災害に備えて具体的なシュミレーションや訓練の実施、自主点検票を活用した防災への取り組みなど、更に災害対策の充実を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議等で尊厳の保持について話し合い、利用者に合わせて対応をしている。	本人の意思を尊重し支える事で、尊厳を大切にしています。職員は、馴れ合いにならないよう態度や言葉使いに注意しています。特に排泄の失敗は、本人のプライドを傷つけないよう配慮しています。個人記録等の書類は事務所内で適切に管理しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定しやすいよう声かけし、行えるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活においては一緒に行っているが、本人の意思を尊重して自分のペースで生活していただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度、理・美容師により散髪、顔剃りをしている。化粧品も同行して買いに行き、希望に添えるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食卓につき、談話しながら同じ食事を食べている。配膳や片づけも出来る方には参加していただいている。	食事作りは利用者ができる事を行い、和やかに食事を行っています。嗜好調査で利用者の好みに合うよう献立の参考にし、食形態や代替食の対応もしています。誕生会は好きな物を用意し、寿司外食や焼肉会も楽しんでいます。月1回の喫茶の日は好評で、和気藹々と好みの飲み物やお菓子を注文しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を担当している職員が栄養バランスを考えメニューを決めている。食事量、水分量はトータルを記載し共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、見守りにて口腔ケアを実施している。歯科衛生士から個別の指導をしていただき実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握しトイレ誘導をしている。排泄のサインを注意深く見守り誘導を行い汚染しないようにしている。	排泄が自立している人もおり、誘導や支援が必要な人のみ排泄チェックを行い、アセスメントに活かしています。身体状況や活動性を考慮して夜間や日中の衛生用品を使い分けています。落ち着かない様子の時は、見守りを中心にさりげなく誘導するなど、自立を支えながら必要な支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳性品の摂取に努めている。体操、廊下の歩行などの運動を働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は職員の配置により、昼間に限られる。順番に入らせていただいているか、希望に添えるように努めている。	週3回以上は入浴できるよう対応し、毎日入浴を楽しんでいる利用者もおり、夕食後の入浴も希望により支援しています。足浴から入浴を誘うなど拒否傾向の対応を工夫をし、無理強いせず本人の気持ちを尊重しています。温泉施設にも出掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促進し、生活のリズムを整えるように努めている。夜間は室温調整や照明調整を行い良眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品説明書をファイルにし、職員が内容を把握できるようにしている。内服確認や全職員がチェックできるシステムも確立している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望される事、出来る事を把握し、お手伝いやゲーム等、喜ばれる事が多くなるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、祭りへの参加等、季節や希望に応じて外出を支援している。歩行困難な方も、車椅子、介護車両にて支援している。	花見や果物狩り、近郊の施設の夏祭り行事などへの外出のほかに、普段の生活の中で個人や数名での散歩や買い物に行っています。また敷地が広いので庭先にベンチを置き、日光浴や軽食を楽しんでいます。多種類の花や木々を観賞し、野菜の手入れや収穫も一緒に行い、気分転換をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はお預かりしている場合が多いが、買い物時はお渡しして支払が出来るよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許可の取れている所には自由に電話を掛けている。また、毎年年賀状も書いている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはゆったりとくつろげるよう配慮している。壁などは季節感のある花や飾りで快適に過ごせるようにしている。	居間の窓からの眺めが良く、四季折々の景色が望め、開放感があります。調度類は馴染みやすい物でソファも設置されており、好きな場所で寛ぐ様子が見られます。日めくりや季節の装飾、利用者の作品などがバランスよく飾られ、家庭的な雰囲気です。建物全体にゆとりがあり、廊下も広く歩行訓練に使われています。収納場所も確保され、利用者の混乱を少なくするよう配慮されています。和室は、家族の宿泊や数名での来訪があった時の歓談の場に使われています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ全ての利用者が共有リビングで自分の居場所を持っている。廊下の椅子にて歩行の運動、休憩所として使っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使っていた馴染みの家具等を置き、居心地良く過ごしていただいている。	収納スペースが設けられ、すっきりと清潔に保たれた居室になっています。自宅で使用していた物の持参を呼び掛け、ベットや箆笥、椅子や仏壇、使い慣れた生活用品が持ち込まれています。趣味の作品や思い出の写真なども飾られており、安心して過ごせる空間になっています。入り口には自室が分かるように写真付きの表札を掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを用い、安全な立ち上がり、移動、歩行ができるよう支援する。			